



女性の活躍推進に必要な わたしの かかりつけ医

医療法人社団 育生会
私のクリニック目白 院長
医学博士
平田 雅子



<平田 雅子> 医学博士
1960年生まれ。日本大学医学部卒業。皮膚科認定専門医・日本医師会産業医・国際中医薬膳師。東京医科大学付属病院勤務。退職後、臨床の第一線に立ち毎日500名以上の患者様の診療にあたる。その後、2003年 女性専門外来、私のクリニック目白 開設 理事長兼院長。



私のクリニック目白
所 東京都豊島区目白 1-4-1
ホテルメッツ目白1F
TEL 03-5992-5550
皮膚を通して総合的に診察するクリニック。皮膚を診て薬を出すだけではなく、食事や生活面のアドバイスなど、患者さんの生活をデザインするクリニック。

女性が元気でいられるように 寄り添うクリニック

皮膚科・内科・アレルギー科、美容治療に心療内科・カウンセリングまで併設している女性のための男子禁制クリニック。院長がいつもニコニコ笑顔で対応してくれるので何でも相談しやすいと専門外の患者さんも来院する。

皆に、自分のクリニックと違ってもらえたらいいなと思って、私のクリニックという病院名にしました。病院は行きづらいですか

らね。主治医を持つ、かかりつけ医を持つ、ということはとても大事なことで、「わたしの」という親しみを込めた意味は大きいと思っています。勤務していた大病院では先輩に、「とにかく早くこなさない」とよく言われていました。とにかく患者さんが多くて忙しいので、お話を聞く時間がないですよ。

それで開業しました。やはり患者さんの話を聞けないのは辛いですから。本人が訴えている裏側にある悩みを見つけるのが私たちの仕事だと思えますし、今の時代は、

のように他の科の相談を受けることもあります。自分の身内がずっと通院していて治らなかつたら嫌ですよね。同じ気持ちです。ですから絶対諦めず原因を探し、私が信頼できる専門の医師を紹介し、そのために女性医療ネットワークがありますから。

かかりつけ医は、患者さんとヘルスケアをつなぐ窓口だと思っています。ですから何かあればかかりつけ医を受診し、そこから紹介された大病院に行くことをお勧めします。そうすれば、かかりつけ医がどういう処置をしているかなどの経過をきちんと書いて紹介し、すると病理などの精密検査の結果は大病院からかかりつけ医に戻ってきます。情報が大病院とかかりつけ医で共有できます。

私は水虫などで大病院に行く必要はないと思うのですが(笑)、簡単に大病院を受診する人が増えて、大病院で治療を受けなければ

いぞ！ という勘のようなものが働いて、当時はまだ当院に婦人科医がいましたので、すぐエコー検査してもらいました。所見は「卵巣がんと」でした。その日に大病院を紹介し、その場で入院されましたが、しかし手術を待っている間に卵巣が破裂して大病院で亡くなられました。卵巣は沈黙の臓器と言われるように症状が出ないので怖いですよね。ちょっとおかしいなと思ったら、かかりつけ医にぜひ相談してください。そのためにもちょっとしたことでも相談できるかかりつけ医を持つてほしいと思います。

ならない人が受診できない事態が生じています。まずは、かかりつけ医を受診して、診断結果に応じて大病院を紹介してもらうのがいいと思います。他の病院で検査した結果を持ってきて私に説明してください、という患者さんもうらっしゃいます(笑)。でも、それが「かかりつけ医」です。

信頼できる「かかりつけ医」を見つけよう！
医師によって経験も知識も考え方も人柄も異なります。話を聞いてくれない、希望する医療がうけられない時などは違う医師にかかることも大切です。生理痛や更年期など女性特有の悩みは、我慢が足りない、気のせいと言われることも。悩みを聞き、原因や解決方法を一緒に探ってくれ、必要ときに専門病院を紹介してくれる平田先生のような信頼できるかかりつけ医を見つけましょう。女性医療ネットワークのHPに会員医師リストが掲載されています。平田先生も女性医療ネットワークのメンバーです。女性医療ネットワークの詳細はこちら<http://cnet.gr.jp/>ぜひ参考に！

北 奈央子：現在、聖路加国際大学大学院博士後期過程在学中、女性医療ネットワーク広報、women's wellness shopを運営している。

ヘルステラシー
北 奈央子のヒトコト